



<こころのケア科>

概要

H.23 年 1 月から 12 月までの副科初診患者数は、H.22 年よりは増えて、361 名（因みに H.22 年は 300 名）、一般成人対象の精神科医は 1 名のため、外来患者は主として入院中の副科診療と救急受診された患者さん、あと短期のごく限られた人の診療に限らせて貰っている。H.19 年 3 月以前には開設していた、こころのケア科の病棟はこの 5 年間は諸種の理由でずっと無い状態である。

外来は、H.23 年 4 月から、週 2 回ではあるが、火曜日と木曜日のみ、身体科初診患者さんで、精神科併診が必要と各担当医が思う患者さんは予約なしの当日受診という条件で、短期の診察を受けることにした。その後 H.23 年 7 月からは月曜日から金曜日までの毎日に増やした。その数は、1 月からの 3 ヶ月間は 4 人。6 月までの 3 ヶ月間は 8 人、外科から 4 人。総合内科から 2 人が多かった。以後 12 月までの半年間は 21 人であった。多い依頼元で言えば総合内科から 7 人、外科から 3 人であった。従って救急外来を除くこころのケア科の外来患者数は全部で 33 名である。

さて副科診療とは、身体疾患で当院に入院された患者さんで各身体科医師がこころのケア科受診を必要と認めた患者さんや、患者さん自身が身体疾患で入院したけれどもこころのケア科受診を希望された場合に、こころのケア科を受診した患者さんとなっている。なお緩和ケアチームの一員に精神科医も含まれており、その患者さんも副科初診患者数には含まれている。また入院の緩和ケアチームとは別に、精神面の緩和ケア外来も火曜日の午後に開いていた。後で、数は呈示する。

300 名の内訳は疾患別ないし状態別でいうと、入院後の主として夜間不穏が問題となる、せん妄の症例が一番多くて 57 人（このうちアルコール離脱せん妄は 5 人、ステロイドによる中毒せん妄は H.22 年は 1 人いたが、H.23 年はいなかった。肝性脳症が 1 人いた）で、割合でいうと 19%（依頼して来た科は、多い所では、外科が 10 人、整形外科が 9 人、消化器内科と呼吸器内科が 8 人ずつ、心臓血管呼吸器外科と血液内科が 4 人ずつである。昨年は内科系が多かったが今年は外科系が主であった）。2 番目に多かったのは身体病での入院後や入院前からの適応障害や、心的外傷後ストレス障害(PTSD)、パニック障害などを含む、神経症圏の症例が 52 人で 17.3%。3 番目に、緩和ケアチーム依頼患者が 31 人、10.3%。次に物質(薬物)依存や離脱、薬物の副作用の患者で、数は 29 人であった。次に自殺企図の症例で、飛び降りや向精神薬ないし他の身体疾患薬の過量服薬の患者さんが 25 人で、8.3%。この 5 種類の状態で、300 人中 194 人で全体の 64.6%になる。

緩和ケアチーム依頼理由の内訳は、疼痛緩和の依頼症例数が 19 人、呼吸困難が 4 人、気持ちの辛さが 3 人、患者さんとのコミュニケーション困難で困るが 2 人、あとは口渇・腹部膨満・嘔気・全身倦怠感が 1 人ずつ、などであった。

6 番目に、不眠・興奮を伴う脳器質性精神障害の患者数が 21 人、次に精神病圏の患者さんが 19 人。各種の認知症の患者さんが 16 人。気分障害圏の患者さんが 13 人、不眠症の患者さんが 10 人であった。分類困難や精神的には病名が付かない患者さんなどのその他に入れた患者数が意外と多く、23 人。ここには腎移植のドナーとレシピエントの 4 人が入っている。摂食障害と身体表現性障害の患者さんが 2 人、あとうつ病による食欲不振を疑われて依頼されて来るが、原因不明の食欲不振の患者数が 1 人いた。以上が入院患者さんの内訳である。

次に再び、外来患者さん、について述べる。救急外来数は 28 人で、他に外来で診察したのは緩和ケア外来の患者さんの 11 人や、ごく短期の外来受診者の 22 人で、結局、病棟の患者さんでない人数は全部で 61 人であった。

救急患者さんは専ら研修医が実際の診察に当たっている。正式なところのケア科の外来診察はしていないので、身体症状を含む病態での受診となっている。その病名は、過換気発作を主としたパニック障害などの神経症圏が 7 人、過量服薬などの自殺企図で当日帰宅が 13 人、精神病症状の患者さんが 3 人、他の精神科施設から処方された向精神薬の副作用が 3 人である。アルコール離脱痙攣が 1 人、その他分類困難が 1 人である。

緩和ケア外来の患者さん 11 人の病名は、適応障害が 4 人、気分障害圏が 3 人、DV 被害者が 1 人、抗がん剤の副作用が 1 人、異常なしが 1 人、体感幻覚症が 1 人である。ごく短期の外来受診者の 22 名の病名は、パニック障害や、全般性不安障害、適応障害、うつ状態などの神経症圏は 10 人、異常なしが 3 人、摂食障害が 2 人、インターフェロン誘発性うつ病が 1 人、身体表現性障害が 2 人、急性ストレス障害が 1 人、アカシジアが 1 人であった。その他 2 人であった。短期の外来ところのケア科初診患者さんで依頼元が多い順に並べると、総合内科が 9 人、消化器内科が 3 人で後は、色々な 10 個の部門が 1 名ずつであった。

（文責）ところのケア科 竹谷一雄

